

5月12日 ヨハネによる福音書7章32～39節

「今度はわたしたちが」

今日の個所で、イエス様は湧き出る水に例えて「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる」という言葉を人々に語っています。出エジプト記でモーセによって打たれた岩の代わりに、イエス様が神様によって十字架に打ち付けられることで、この世に聖霊という名前の生きた水があふれ出すことになることを人々に示したのです。

イエス様がこの話を仮庵の祭りで話していたのは、この世での命が仮小屋である、普段の家ではなく一時だけ住む仮住まいの家であることを教えるためでもありました。イエス様を例に挙げますと、単純計算でこの世での命が30年ほど、そのあとの命は2000年以上続くことになります。このように比較するだけでも、私たちが経験することになる死後・復活後の新しい命・新しい身体での時間と比べて、この世界での命が仮小屋生活と呼べるほどに短いものであることがわかれると思います。その命を与えるのがイエス様の十字架と復活であり、この世に与えられる生きた水、聖霊の力であります。

そして同時に、イエス様によってあふれ出る水とは、十字架と復活、聖霊の働きによって世界へと広がっていく御言葉そのものでもあります。イエス様を信じる人は、神様を愛し・隣人を愛するそのすべての行動をもって、聖霊をほかの人へと伝えていくことになります。そしてイエス様を信じる人の口には御言葉が宿り、知らずのうちに誰かに御言葉を分け与えることができるようになるのです。言葉によって、行動によって、「イエス様を信じるができるようになる」という生きた水を私たちは誰かに注ぐことができるのです。

さらに、それだけではありません。聖霊を注がれた私たちは、信仰を誰かに教えるという伝道の業だけではなく、私たちの生活のあらゆる場所に、私たちのことを思ってくれている一人一人がいて、その一つ一つの行いから愛を感じる事が出来るようになっていきます。

その行き着く先は、私たちが「自分のために、誰かに良いことをすることが出来る」という自発的な善の行いへとつながっていきます。善行というものは、時に偽善と言われることもあります。私たちが誰かにのたためを思って何かを行うことが出来るのです。しかも、お礼の言葉などの見返りを求めることなく行うことが出来るのです。それは、私たち一人一人が、誰かに良いことをすることによって、神様が喜んでくれることを知っているからだと思います。

神様を喜ばせることが出来る、それは、冷静に考えるととても驚くべきことだと思います。イスラエルの民は、神様の怒りを鎮めるために何度も焼き尽くす捧げものを捧げてきましたが、その信仰の姿勢はいつも神様の顔色をうかがい、いつも自分が何か失敗をしまっていないか、と怯え続ける信仰でありました。しかし、私たちは違います。私たちは、いつも神様の喜ぶ顔を想像しながら、誰かの喜ぶ顔を想像しながら善いことを行い続けることが出来るのです。それが、私たちに与えられた生きた聖なる水、聖霊の与える大きな力なのです。

神様に支えられて、聖霊に強められて、私たちは日々の業を行っていきます。そのすべてが喜びの中で行われている希望に強められながら、これからの歩みを進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書 7 章 32～39 節

- 32: ファリサイ派の人々は、群衆がイエスについてこのようにささやいているのを耳にした。祭司長たちとファリサイ派の人々は、イエスを捕らえるために下役たちを遣わした。そこで、イエスは言われた。「今しばらく、私はあなたがたと共にいる。それから、私を遣わした方のもとへ帰る。あなたがたは、私を捜しても、見つけることがない。私のいる所に、あなたがたは来ることができない。」すると、ユダヤ人たちは互いに言った。「私たちが見つけることはないとは、この人はどこへ行くつもりだろう。ギリシア人の間に離散しているユダヤ人のところへ行って、ギリシア人に教えるともいえるのか。『あなたがたは、私を捜しても、見つけることがない。私のいる所に、あなたがたは来ることができない』と彼は言ったが、その言葉はどういう意味なのか。」
- 祭りの終わりの大事な日に、イエスは立ったまま、大声で言われた。「渇いている人は誰でも、私のもとに来て飲みなさい。私を信じる者は、聖書が語ったとおり、その人の内から生ける水が川となって流れ出るようになる。」イエスは、ご自分を信じた人々が受けようとしている霊について言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、霊がまだ与えられていなかったからである。